

第24講 『発熱』

: 発熱には『外感発熱』と『内傷発熱』がある。

- 『外感発熱』とは外邪人体を侵襲し、人体正気と外邪が相互に争うことにより起こる発熱である。
- 『内傷発熱』とは臓腑機能や気血陰陽の失調による発熱のこと。

【外感発熱と内傷発熱の違い】

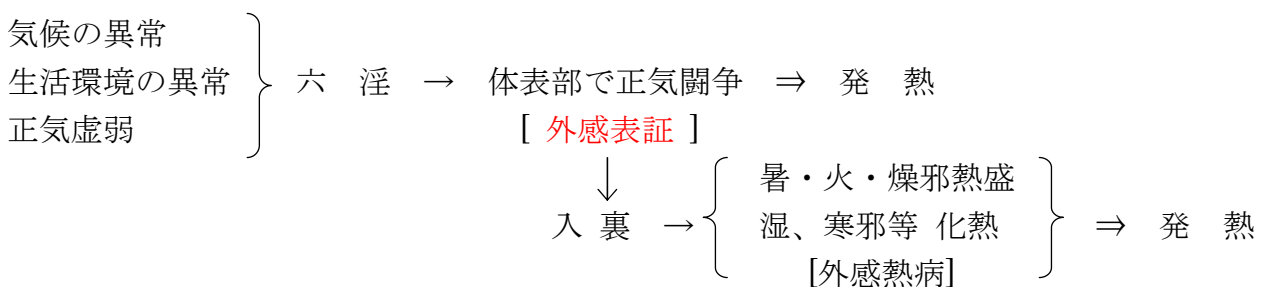
	外感発熱	内傷発熱
共通点	発熱を主症状とする	
病因	外感(外邪)	内傷(臓腑失調)
発病	急	緩慢
病程	短い	長い
熱勢	強い: 多くは中・高程度の発熱	強弱不定: 多くは微熱、間歇発熱
兼証	外感熱病、外感表証 実証が多い	内傷久病、虚性証候 虚証が多く、実証・虚実挟雑証もある

第1節 『外感発熱』

【分類】 { 実証 : 風寒、風温(風熱、温熱)、湿熱、寒湿、暑湿
虚証 : 無し

【病因病機】

* 基本的に六淫(風、暑、湿、燥、寒、火邪)いずれによっても発熱は起こる。



* 補足

「六経・三陰三陽病証」中の少陽病：寒熱往来、胸脇苦満、脈弦数 も外感熱病。
 「衛氣營血病証」は外感熱病（温熱病）に的を絞った弁証方法である。

【 症状と処方例 】

1. 風熱

[症 状] 発熱、悪風。咳嗽、鼻淵・鼻汁、鼻汁や痰は黄色で粘稠気味、頭痛、四肢のだるさ。舌苔薄黄、脈浮数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
尺沢	肺経	宣肺止咳	肘窩横紋上で上腕二頭筋腱の橈側陥凹部
魚際	肺経	清肺熱	第1中手指節関節の上、橈側陥凹部、表裏の肌目
曲池	大腸経	清熱(退熱要穴)	肘窩横紋外方、上腕骨外側上顆の前、陥凹部
内庭	胃経	清熱	足背で、第2中足指節関節の前、外側陥凹部
大椎	督脈	清熱(退熱要穴)	第7頸椎・第1胸椎棘突起間
外関	三焦経	発汗解表	陽池穴の上2寸、総指伸筋腱と小指伸筋腱の間

2. 風寒

[症 状] 発熱、悪寒。咳嗽、鼻淵・鼻汁、鼻汁や痰は白色で質が薄い、頭痛、四肢のだるさ、無汗。脈浮遅あるいは浮緊。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
列缺	肺経	宣肺	太淵穴の上1寸5分、動脈拍動部のやや橈側に取る
支正	小腸経	祛風散寒	陽谷穴から小海穴に向かい上5寸
風門	膀胱経		第2・3胸椎棘突起間、外1寸5分
合谷	大腸経	宣肺を強める	第1・2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨よりに取る

3. 湿熱 / 4. 寒湿

[症状]

* 脾胃湿熱：身熱不揚、汗が出てても熱が下がらない。胸腹脹満、納呆悪心。舌苔黄膩、脈滑数。

* 大腸湿熱：発熱、腹痛、泄瀉または赤白膿血便、裏急後重、肛門灼熱、口の乾き、口苦、尿短赤、舌紅苔黄膩、脈滑数。

* 膀胱湿熱：発熱、午後に顕著。尿頻・尿急・尿痛(灼痛)、小便熱黄赤、腰部もしくは小腹部疼痛。舌紅苔黄膩、脈滑数。

[処方例]

* 脾胃湿熱：

	経絡	意義	取穴部位
陰陵泉	脾経	健脾利湿	脛骨内側顆の下、脛骨内側の骨際、陥凹部
合谷	大腸経	清熱	第1・2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より取る
曲池	大腸経		肘窩横紋外方、上腕骨外側上顆の前、陥凹部
中脘	任脈	補中助運	前正中線上、臍の上4寸
豊隆	胃経	祛湿	外果の上8寸、条口穴の外方に一筋へだてた陥凹部に取る

* 大腸湿熱：

	経絡	意義	取穴部位
合谷	大腸経	瀉腸湿熱	第1・2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より取る
曲池	大腸経		肘窩横紋外方、上腕骨外側上顆の前、陥凹部
天枢	胃経		臍の外2寸
上巨虚	胃経		足三里穴から解谿穴に向かい下3寸

* 膀胱湿熱：

	経絡	意義	取穴部位
照海	腎経	利尿清熱	内果の直下1寸
中極	任脈	清利膀胱湿熱	前正中線上、臍下4寸
大敦	肝経	清利湿熱	足の第1指外側爪甲根部、爪甲の角を去ること1分
陰陵泉	脾経	清利中焦湿熱	脛骨内側顆の下、脛骨内側の骨際、陥凹部
三陰交	脾経		内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際

5. 暑湿（中暑）

[症状]

- * 軽症：身熱、眩暈、頭痛、少汗、嘔吐、倦怠嗜睡、舌苔白膩、脈濡数。
- * 重症：壮熱、無汗。肌膚灼熱、面紅目赤、口唇乾燥、煩渴多飲、神志昏迷、痙攣、舌紅少津、脈洪数。

[処方例]

* 軽症：

	経絡	意義	取穴部位
大椎	督脈	解暑清熱	第7頸椎・第1胸椎棘突起間
合谷	大腸経		第1・2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨よりに取る
陷谷	胃経		足背で、第2中足指節関節の後、外側陥凹部
内関	心包経	和中化湿 益気扶正	大陵穴から曲沢穴に向かい上2寸
足三里	胃経		外膝眼穴の下3寸

* 重症：

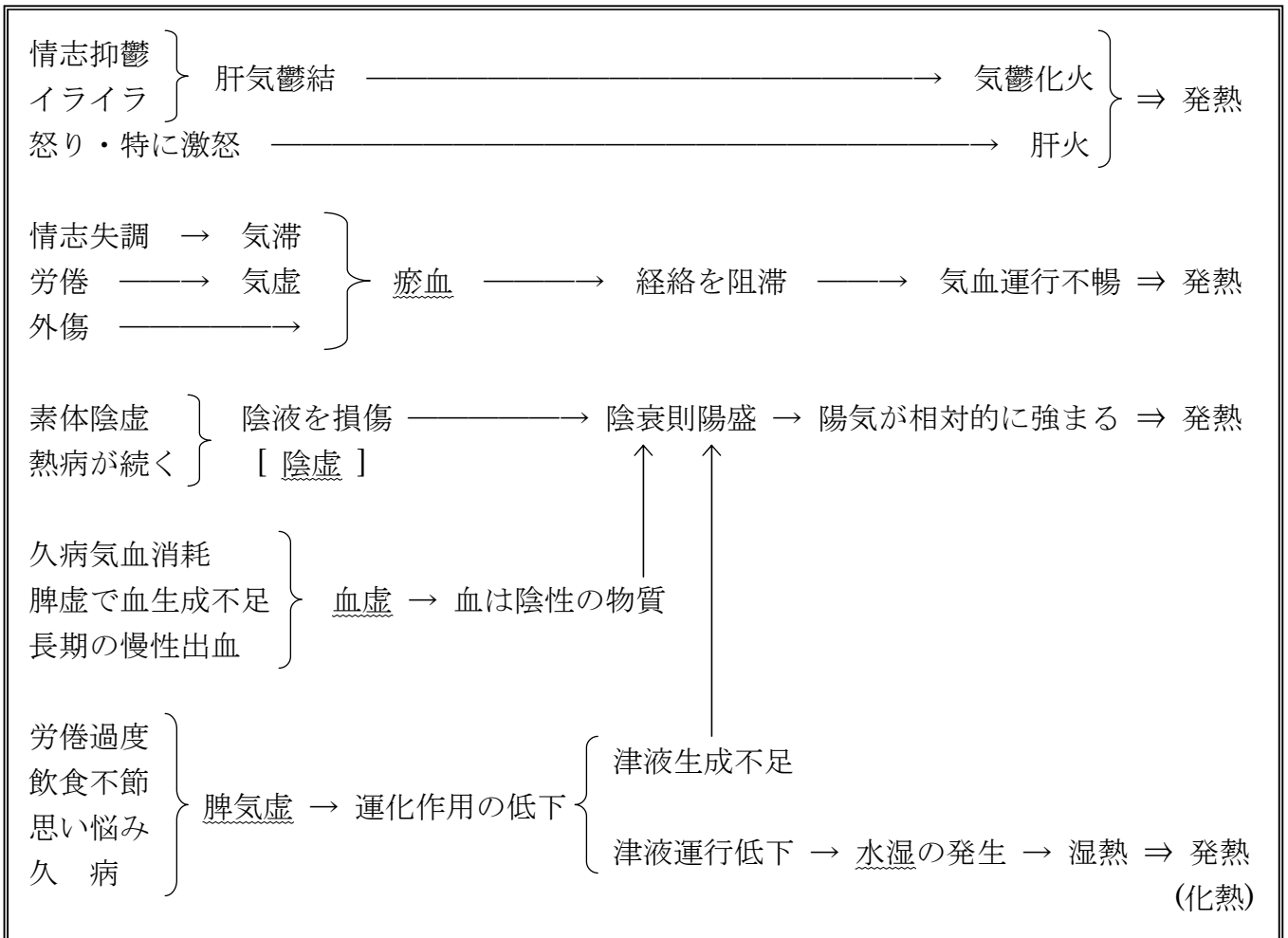
	経絡	意義	取穴部位
百会	督脈	清熱開竅醒腦	正中線上、前髪際の上5寸
人中	督脈		鼻中隔の直下、人中の中央に取る
十宣	奇穴	開竅止痙	左右十指の先端
曲沢	心包経	清熱	肘窩横紋上で、上腕二頭筋腱の尺側陥凹部
委中	膀胱経		膝窩横紋の中央
曲池	大腸経		肘窩横紋外方、上腕骨外側上顆の前、陥凹部

第2節 『内傷発熱』

【分類】

{ 実証 : 肝火(気鬱)、瘀血 虚証 : 陰虚、血虚、気虚	}	中気不足 : 虚証
		内湿停滞 : 虚实挟雑

【病因病機】



【症状と処方例】

1. 肝火

[症状] 発熱、多くは微熱で熱勢が情緒の状態により起伏することが多い。精神抑鬱、胸脇脹満、イライラして怒り易い、口苦。 舌紅苔黄、脈弦数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
太衝	肝経	疏肝理気	足背にあり、第1・2中足骨底間の前、陥凹部
期門	肝経		第9肋軟骨付着部の下際
陽陵泉	胆経		膝をたて腓骨頭の前下際
行间	肝経	清肝熱	第1中足指節関節の前、陥凹部

2. 瘀血

[症状] 発熱、午後や夜間に顕著、あるいは体のある部分に熱を感じる(自覚症状)。口が乾燥し咽喉が渇くが飲み物を飲みたくない、固定性の刺痛または腫塊、青色は暗黒色または艶のない黄色。舌青紫、瘀点瘀斑、舌下絡脈、脈洪数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
心兪	膀胱経	活血化瘀	第5・6胸椎棘突起間の外1寸5分
膈兪	膀胱経		第7・8胸椎棘突起間の外1寸5分
太淵	肺経		手関節前面横紋の橈側端陥凹部、動脈拍動部
太衝	肝経		足背にあり、第1・2中足骨底間の前、陥凹部

3. 陰虚

[症状] 午後あるいは夜間の潮熱、または骨蒸潮熱、手足のほてり、盗汗。心煩、不眠、多夢、口や咽喉の乾き、便秘、尿短黄。舌紅少津、または裂紋がある、脈細数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
神門	心経	滋養心陰	手関節前面横紋の尺側、豆状骨の上際で尺側手根屈筋腱の橈側
心兪	膀胱経		第5・6胸椎棘突起間の外1寸5分
太谿	腎経	滋養腎陰	内果とアキレス腱の間陥凹部
腎兪	膀胱経		第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
三陰交	脾経	補中生津	内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際

4. 血虚

【症状】発熱、多くは微熱、眩暈、目がぼやける、体がだるく力が入らない、四肢がしびれる、心悸、顔面蒼白で艶がない、唇や爪の色が淡白、脈細弱数。

【処方例】

	経絡	意義	取穴部位
膈俞	膀胱経	養血和血	第7・8胸椎棘突起間の外1寸5分
血海	脾経		膝蓋骨内上角の上2寸
太衝	肝経		足背にあり、第1・2中足骨底間の前、陥凹部
三陰交	脾経	補中養血	内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際
太白	脾経		足の第1中足指節関節の後、内側陥凹部
足三里	胃経		外膝眼穴の下3寸
太谿	腎経	補腎精	内果とアキレス腱の間陥凹部

5. 気虚

【中気不足】

【症状】発熱、多くは微熱、疲れた後あるいは活動後発作・悪化。倦怠無力感、息切れ、話すのがおっくうで口数が少ない、自汗、風邪をひき易い、泥状便。舌淡、脈細弱数。

【処方例】

	経絡	意義	取穴部位
太白	脾経	補中益気	足の第1中足指節関節の後、内側陥凹部
脾俞	膀胱経		第11・12胸椎棘突起間の外1寸5分
三陰交	脾経		内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際
足三里	胃経		外膝眼穴の下3寸
中脘	任脈		前正中線上、神闕穴の上4寸

【内湿停滞】

【症状】微熱、午後に顕著、身熱不揚。脘腹膨満・痞満、全身が重だるい、食欲不振、口渇不欲飲、悪心、大便稀薄または粘滞でスッキリしない。舌苔白膩または黄膩、脈濡数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
曲池	大腸経	清熱	肘窩横紋の外方、上腕骨外側上顆の前
合谷	大腸経		第1・2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より
陰陵泉	脾経	健脾利湿	脛骨内側顆の下、脛骨内側の骨際、陥凹部
太白	脾経		足の第1中足指節関節の後、内側陥凹部
脾俞	膀胱経		第11・12胸椎棘突起間の外1寸5分
足三里	胃経		外膝眼穴の下3寸